



義務教育学校 第8学年
第24号
平成31年1月31日発行
タイトル
8-A

亥年のはじめに想うこと

学校長

今年の干支は亥。猪突猛進とよく言いますが、皆さんは猪が走る姿をみたことがあるでしょうか。数年前、福井市越廼の海辺近くの県道で海をみていたとき、背後でドドド…という音がし、振り向いたら頭髻長1メートルほどの若い猪が私の側を駆け抜けていきました。その速いこと、まさに猪突猛進。猪の走る速さは時速50Kmとも言われています。ぶつかったらひとたまりもありません。また昨年秋には、福井市殿下で猪の親子連れに出会いました。車を停めて観ていたら、好奇心旺盛な4頭の瓜坊が車の近くまでやってきました。しばらくすると母親に促されて林の中に消えていきましたが、その間かわいいう瓜坊の姿をじっくり観ることができました。ちなみにイノシシは、分類学上、鯨偶蹄目に属し、ウシやヒツジの親戚にあたります。

それはさておき、1月6日のある新聞に掲載された教育関連記事の中で、「非認知能力」という用語を目にしました。教育学の分野で語られる言葉には理解に苦しむものが多い、というのが私の正直な感想です。この非認知能力という曖昧な言葉が教育界でちょっとしたブームになっているのです。この概念は2000年にノーベル賞を受賞した経済学者J・ヘックマン氏が提唱したものだそうで、簡単に言えば、コミュニケーション力や共感力、忍耐力、自尊感情、意欲などのこと。その後OECDが「社会情動的スキル」という、これもまた難解な言葉を用いてこの能力の重要性を指摘し、さらにOECD Education 2030ではagencyという言葉に置換しているように思われます。OECDの資料も目を通しましたが、内容が抽象的でピンとこないし（読解力と認知能力の不足？）、科学的な根拠はあるのと悶々としているときに、心理学者のA.ダックワース氏の著書「GRIT やり抜く力」の存在を知りました。啓発本的なタイトルに抵抗はあったのですが、たまたま書店で見つけたので読んでみることにしました。

ダックワース氏は、人が各々の分野で成功するには「才能」よりも「GRIT（やり抜く力）」が重要であることを様々な調査研究を通して科学的に明らかにし、2013年に米国で「天才賞」とも呼ばれる「マッカーサー賞」を受賞しています。端的に言えば、GRITは「情熱」と「粘り強さ」から成り、自分の目標に興味を持ち続けて真摯に取り組み、困難な状況に陥ったり、挫折しそうになっても諦めず努力する能力のこと。グリット・スコアが高い人ほど幸福感や人生の満足度も高いという結果も示されています（ted.comでダックワース氏の講演も視聴できます）。テニスの大坂なおみ選手もグリット・スコアが高いはずで。

最後に、この本の中である脳科学者の発言が引用されており、印象的だったので紹介します。「我々は脳の神経回路には可塑性があると考えている。まだ若いときに大きな逆境を経験して、それを乗り越えた場合、それ以降にまた逆境が訪れると対処のしかたが変わってくる。ただし、それは非常に大きな逆境を経験した場合に限られる。ちょっと困った程度のことでは脳に変化が起こらないからね。」

私のような老化した脳には可塑性もレジリエンスもありませんが、若い皆さんは違います。向こう見ずに突き進む「猪突猛進」ではなく、目標をもって「GRIT」を育ててほしいと思います。

愛級祭

12月20日(木)の午後、後期生徒委員会主催による愛級祭が北体育館で催されました。短い期間での練習でしたが、自分たちのクラスをダンスやプレゼン等で表現し、クラスの絆を深め、団結力を高めました。今年度は附属特別支援学校の生徒も参加し、同じ附属学園で学んでいる生徒同士で交流を深めました。

A組



B組



C組



音楽集会



1月11日(金)の6限目に、附族タイム「音楽集会」が行われました。音楽委員会の生徒が企画・運営をし、5年生から9年生の児童生徒が日頃の音楽科の学習成果を交流しました。

8年生の生徒は伝統音楽「雅楽」を披露しました。どの学年も本校の伝統文化である音楽文化に親しみ、誇りを持って演奏に臨んでいました。最後に、全員で「ふるさと」を合唱しました。

雅楽「越天楽」



全員合唱

- 以下は歌詞より抜粋 -
- | | |
|--------|------|
| うさぎ追いし | 彼の山 |
| 小ぶな釣りし | 彼の川 |
| 夢は今も | 巡りて |
| 忘れがたき | ふるさと |



ロボコン 全国大会

1月26日(土)、中学校技術・家庭科第19回創造アイデアロボットコンテスト全国中学生大会が東京都で開催されました。本校からは、県および東海・北陸予選を勝ち抜いた8B生徒が出場しました。

予選リーグでは、岩手県代表の厨川中学校に 3-0、山口県代表の山口大学附属中学校に 3-1 と難なく勝利し、決勝トーナメントでは、長崎県代表の長崎南中学校と対戦。相手の的確で素早い動きに、自分の思うような攻撃や防御がうまくいかずに、1-3 で惜敗。それでも全国5位という素晴らしい結果でした。また、ロボットの PR タイムもあり、審査員の方々にロボットの機構等のアイデアも評価され、審査員特別賞も受賞しました。



第19回全国中学生 創造ものづくり教育フェア

主催 全日本中学校技術・家庭科研究会



修学旅行に向けて

学Pでは、3月13日（水）～15日（金）に行われる修学旅行に向けて、着々と準備を進めています。修学旅行実行委員が総括・交流・研修・表現・生活規則の5つの部門に分かれ、部門長を中心に、それぞれの部門が下記のメンバーで話し合いをしながら計画を立てたり、今後の方向性について考えたりしています。以下に5つの部門の実行委員を紹介すると共に、各実行委員長からの抱負や今後やっていきたいことなどを紹介します。

【総括】 旅行団総指揮、学活&学P活動計画立案、しおり編集、式進行、全体広報等

【交流】 1日目午後の交流イベントの企画・運営、会場との連絡調整、部門別練習等

【研修】 2日目の企業・施設との連絡調整、訪問先調査、アポ取り、行程計画作り等

【表現】 音楽ドラマのストーリー決め、脚本・演出、出演者選び、全体練習、歌唱練習等

【生活規則】 規則づくり、集団行動指導、部屋割り、ディズニー班、飛行機・バス座席等



表現部門 音ドラマテーマの全体話し合い



研修部門 小グループによる話し合い

【総括】 修学旅行は入学してから行ってきた学Pの集大成の場でもあり、後期課程での思い出をたくさん作る場でもあります。決めること、考えること、つくることがたくさんあり、修実だけでなく、全員が忙しくなっていきます。大変なこともいっぱいあると思いますが、がんばりましょう。修学旅行までの短い間ですが、よろしくお願いします。
(総括実行委員長 8B)

【交流】 先日、4つの訪問先が決定し、いよいよハローワーク製作へと活動を移すことができました。修学旅行での交流の場が皆さんにとって、より充実したものになるように、運営をがんばっていきます。みなさんも発表をすばらしいものにするために、ハローワーク製作、がんばっていきましょう。
(交流実行委員長 8A)

【研修】 研修実行委員長として、みんなですばらしい実のある研修にしたいです。そのためにまずは、各班で行く研修場所をしっかりと決めていきたいと思います。これからアポ取りなど、みんな忙しくなるけど、班の人たちと協力して、最初に言ったみんなですばらしい実のある研修にしていきたいです。
(研修実行委員長 8C)

【表現】 表現では音ドラをします。先日、テーマが「想」に決まりました。大まかなストーリーは決まり、今は脚本に取りかかっています。音ドラは、学年全員で取り組むものなので、心をひとつにできるようにしていきたいです。修学旅行で音ドラが成功するように、みんなががんばりましょう！！
(表現実行委員長 8C)

【生活規則】 修学旅行を円滑に行うために日常の時間の管理から気を付けていきたいです。どれだけ綿密に計画を立てても、それを実行する力がなければ、良くなりません。これから細かいルールなどの決めることが多くなってくるので、冷静な判断力を損なうことがないようにしながら時間を気にして、手本として行動していきたいです。
(生活規則実行委員長 8C)